

令和3年度 厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）

児童・思春期精神疾患の診療実態把握と連携推進のための研究

分担研究報告書

分担研究課題名：心理職団体が行う研修の調査

研究分担者 西牧 謙吾 国立障害者リハビリテーションセンター病院

研究要旨：子どものこころ診療に関する心理専門職資格認定3機関に、研修についてアンケート調査を行った。関係団体の研修内容統一されていないが、子どもの心診療ネットワークの一翼を担うため、研修内容のガイドラインの整備も必要と考える。

A. 研究目的

児童思春期精神疾患の診療実態把握と連携推進のための研究において、基幹病院カルテ調査・全国アンケート調査を行い、対象患者・診療対象疾患、児童思春期精神疾患の診療継続、児童思春期精神疾患の他機関連携、連携先機関の実態を明らかにする。

B. 研究方法

本調査は児童思春期精神疾患の患者の診療実態、初診後の診療継続期間、多機関連携の実施状況を明らかにすることを目的に、①基幹病院でのカルテ調査と、②全国施設アンケート調査を実施し、調査をまとめる。R3年度は、こころの診療に関する捉え方と研修調査（H17年度とR3年度比較）を実施する。対象は、小児科、児童精神科関連学会、新たに心理系関係団体を加える。

（倫理面への配慮） 研究全体は、国立成育医療研究センターで倫理審査を受けた。情報提供を行う上で、個人情報（氏名、性別、年齢）を匿名化し、個人が特定

されない形式で提供した。

C. 研究結果

日本臨床心理士会、日本公認心理士協会、臨床発達心理士認定運営機構の心理関係3団体を対象とした。いずれも、全体調査時（H17年）には、調査対象ではなかった。調査項目は、構成員、認定資格と人数、子どもの心診療内容、主な研修、設立年度、資格取得条件、資格認定期間とした。日本臨床心理士会は、医師を含め、21480名の構成員で、臨床心理士資格を認定している。日本公認心理師協会は、国家資格を認定する機構で、構成員は非公開、臨床発達心理士認定運営機構は、構成員が3731人（内容は不明）、認定資格は、臨床発達心理士スーパーバイザー。3機構とも、子どもの心診療に、幅広く関わっている。研修内容は、医療という視点で幅広く捉えているが、障害に関するテーマが多い。更新条件は、一定期間に更新研修会を受講すること。認定期間は5年。

D. 考察

心理職の国家資格化で、子どもの心診療の重要な位置を占めることが明らかになった。関係団体の研修内容統一されていないが、子どもの心診療ネットワークの一翼を担うため、研修内容のガイドラインの整備も考慮すべき。

E. 結論

心理職の国家資格化で、子どもの心診療の重要な位置を占めることが明らかになった。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし